

こいつは春から縁起がいいわい

今年が、年が明けるとすぐに「優勝」とか「金メダル」とか明るい話題が沸騰した。しかし、どちらにも一朝一夕には手に入れることができない。つらい練習や修業の果てに与えられるものだからである。

二月のオリンピックではいくつものエピソードに心打たれたことと、日本の選手達の技量の高さに感動させられたこともある。菅野の言葉がとび交った。羽生選手は東日本大震災に遭遇しオリとピック不出場となるかもしれないと心配したが心と技で銀を削り金メダルの成果をツキで花開かせたのと。また、浅田選手は、これまでの練習で休んだのは一日だけ一月元日だったと。筆舌に尽さない信念によって念願の金メダルを得たのたと言おう。

三月大相撲春場所では、鶴龍が優勝の経験と横綱の地位、二つの栄誉を得た。

というわけで「春から縁起がいいわい」とはこれ等のことであつた。だが残念にも、みなテレビビジョンの映像に呼応していたことでも足りない。生のスタジアムで盛り上げたものだ。早速金メダルを受け取ってくれる人を探さなくちゃ。

それは、身近かにいる、いる。コ、今では。。。

桜の夜も終わってあたりが静かになった。日暮れ時、夕刊をとりおそうとポストの口を開けると白い封筒にフレッシュレストランのロゴマークが見えた。あれが。。。

当店は十四周年を迎え記念の会をしたいというお知らせであつた。

「あ、十四年もお美しいものを。。。」  
たけまぬ努力をしてくるフランクの舌を豊かに保ってくれていたと思つと長い年月のエピソードなど聴いてみたくなる。

わたしの住んでいる極く極く近くに大好きなフレッシュレストランがあり、店の誕生の時既に住んでいてその歩みを知っているので、評判

のよさは自分のことのようにうれしかったし、レストランの成長はそのままの数の数になっていた。この際オリンピックの金メダルにあやか  
つて日本らしいしつとりとした喜びを大勢の人と分かちたいと思っ  
いたので、十四周年のお祝は何とうれしいことだろう。

十四周年に限ったことではないが、レストランのファンは、西はJR東海道  
線、小田原のもつと先から来る人、東は高崎線で東京を通過して  
くる人もいろいろきた。

こんなに長い間、ファンを喜ばせ続けられる美味はどのようになら  
れるだろう。

「歩道を急ぎ足で歩いていると前方から二人の女性がゆくり歩いてき  
てすれ違ひざまに

「あのう……」この辺にレストランはないかと尋ねる。

「レストランの名前は？」と尋ねられたのだそう。

「尋ねられているのはあのレストランに違いないのだが、二人は予約はし  
ていないと言えう。それでは細かいことを言っても無駄になる。

「どこからいらしたのですか？」

「東京から来ました。友達があまりおいしそうな話をするものから  
から、急に来たくなりました。二人で来たんです。」

「まあ、東京からいらしたんですか。教えてくださったお友達  
とご一緒にはいらしたらどうでしょう。お友達のおしゃる通りだと

思いますよ。」気の毒だったかこれでよかったと思つた。

「絶品のお料理をいただくの長い道のりも気にならな。

あれから半月は経つたろうか、東京の三人の女性は大満足だったろう。

「今でしょ。スタンディングオーバーン。」

「もう一つ、これは友から縁起がいいわい。」